

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	ウミガメネットワーク三重	三重県津市	若林 郁夫	鳥羽水族館	環境学習会「三重の海へやって来るウミガメ」	令和3年5月15日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>松坂、伊勢、志摩半島での産卵回数が、2012年には150回でした。産卵回数は3～4年周期で増えたり減ったりします。しかし、2014年以降減り続けて増えることがないです。定置網には2種類あり、奥へ行く海中で袋状になっているネズミ網に混獲されたウミガメは100%死亡しています。海の中にフェンス状に張ってあるイワシ・アジ網は、100%生存しています。現状は、非常に多くのウミガメが混獲で死んでいます。また自然災害や砂浜の減少により卵の孵化が減っています。</p> <p>今後は、混獲防止対策を実施する努力が必要です。また子ガメを増やすために、移植や獣害対策が必要です。そして産卵調査を続けていくことが重要です。</p>			<p>三重県の各地から参加者が集まり、これまでの上陸産卵回数や死亡したウミガメの死亡原因についてのお話を伺いました。今後、ウミガメの保護・保全のために何をすべきか、非常に勉強になりました。他の地区でウミガメの保護に携わる方にとっても同様だと考えます。また、一般の方にも新たな発見があったようです。</p>			
2	長野市大岡地区住民自治協議会	長野県長野市	川北 秀人	IIHOO(人と組織と地球のための国際研究所) 代表	「今まで通りのことが出来なくなった地域で、これから先の住民自治はどう育み推進したいか」	令和3年7月3日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>人口減少や75歳以上の高齢者の増加などこれまでに経験したことのない地域状況に加え、世の中もどんどん変化中、これまでとは違う判断や取り組みは当然必要になる。そこで重要なのは、地域の「決める力」。何も決まらず、今まで通りを続けて行くことは無理だし、住民もついて来なくなる。本来自治とは自分たちで決めて、自分たちで担うこと。そのための決断力を地域はつけるべきである。ただし、よりよい決断をするにはそのための材料がいる。そこで全住民アンケートの実施とその正しい活用を勧めたい。アンケートは実施しただけ、まとめただけでは何の意味もない。アンケート結果から、何を課題にしどう取り組むのか、地域内で十分に協議することが大事だ。</p>			<p>地域内では役の担い手がいない、行事が多い、など自治運営に対する不満や、地域自治はも維持できないしやってもムダといった後ろ向きの意見や意識が蔓延している。講師の言うとおり、これまでどおりはもう通用しないが、さりとて何をしたらいいかとなるとこれも決められないという閉塞的な状況に陥りつつある。今までのように役員だけで決めてそれを下におろすという時代でもない。</p> <p>今回の講座では、全住民アンケートをする意味や回収後の展開の仕方が説明され、アンケートは実施したその後のの方がはるかに大事であること。特に報告会を実施して住民と協議の場を作り出すことが、今後の地域計画づくりに直結するプロセスであることが理解できた。地域としてこれを実践していく。</p>			
3	本のソムリエ団長・世話人会	福岡県飯塚市	本のソムリエ団長	教育関連講演、読み聞かせ、経営セミナー講師、翻訳家等	読書で広がる世界～講話や読み聞かせ活動を通して～	令和3年6月10日(木) 令和3年6月11日(金)
	事業内容			事業成果		
<p>徳波東小学校では「読書で広がる世界」「自分の得意を見つけて進路を切り拓く」、飯塚鎮西小学校「命」、若菜小学校「読書の楽しさ」「自信をもって自分らしく」のテーマ講演と読み聞かせをされた。小学校では、絵本「けげげ」は「はやく大きくなりたいな」「ことばのかたち」(フランス語の絵本を翻訳しながら)黒狼の話等を読まれた。</p> <p>○いい言葉を使って、人を大切に、いい人生を送ること ○自分を大切にすること ○自分に自信を持つこと ○友達、先生、家族を大切にすることをテーマに絵本の読み聞かせとともに講話された。急遽片島小学校が緊急時コロナ対策で中止になったため、鮎田交流センターで地域の方向けの講演をされた。</p> <p>○「コロナ禍でも夢をもって生きることの大切さ」をテーマにオリジナルのDVDを使いながら、世界の国々の話をされた。</p>			<p>子ども達の感想では、 ・絵本のけげげでは自分は色がなくなっても周りに色を付けて頑張ったところがすごかった。 ・絵本のけげげでは自分はどんどんやせても周りが元気になるようにしたところがすごかった。 ・けげげさんは、小さくなって白くなったけど、にこにこして雲になってよかった。人の役に立てるようになりたい。 ・黒狼がいろいろな色にあこがれて変身したが、黒狼は最後に自分の色が一番いいことに気づいた。人がよく見えるけれど、本当は自分が一番いいことがわかった。 ・団長さんは世界のいろんなところに行っているの、自分も行きたい。 ・ちよつくりい痛いことがあっても「最高」と思えばへっちゃらなことがわかった。 ・言葉が人の心をチクチクナイフで刺したりすることがわかった。いい言葉を使いたい。 ・自信をもって、夢を叶えたい。</p> <p>地域の方達 ・子どもは大人の鏡だから、大人が生き生きとした姿を見せないと子ども達が暗くなってしまふ。もつと夢をあきらめずに生きたい。大人が生き方を示したい。 ・コロナだから何もしないのはおかし。コロナ禍でもできることをやりたい。 ・アラブの話やオランダの話等大変楽しかった。 ・大リーグの話が楽しかった。 子ども達の感想より読書の興味関心を高めたことや、人や自分を大切にするため言葉を大切に使うこと等学んだことがうかがえた。</p>			
4	原村ねこの手サービス運営委員会	長野県原村	・米山 勝也氏 副代表理事 ・舟山 優氏 副代表理事 ・尾淵 和之氏 理事	特定非営利法人 長野県ハンディキャップ連絡会・指導員	運転者講習会	令和3年7月8日(木)
	事業内容			事業成果		
<p>国土交通省が認定する移送サービス運転者講習も実施しているNPO法人長野県ハンディキャップ連絡会へ依頼し、座学(講演)1時間と3名の指導員による実技指導2時間を行いました。</p> <p>座学では「安全・安心な運行のために・・・ご自分の運転についてもう一度認識しましょう」と題し、高齢者の運転の特徴として、交通事故の状況や特性のお話をいただいた。また、利用者を乗せた時の運転方法を詳しく教えていただきました。</p> <p>実技には、参加者の自家用車を使い、助手席に指導員、後部座席に別の利用者が乗車し、コースの確認や緊張ほぐし運転に臨みました。</p> <p>最後に「原村ねこの手サービス協力会員研修会 運転者講習会」修了書を講師の米山様より参加者の方にお渡しいただきました。</p> <p>参加者からは、「少人数でコミュニケーションが図れてよかった」「他人の目がある中での運転は刺激になる。自分を客観的にとらえられる」「自己流の運転操作が身についたことを知らされた。今後もこういった機会があれば参加したい」などの感想が聞かれました。</p>			<p>本講習会は、コロナ禍中、住民向けに密集・密接の大人数の講習会を行うことが困難なため、内部体制を強化し、ねこの手サービスが継続して地域づくりに寄与していけるよう、企画しました。</p> <p>H30年度の研修会を経て、昨年、ねこの手サービス協力会員の有志が自主的なボランティアグループとして、ねこの手サービスの同行支援とセットで送迎サポートを始めた。</p> <p>H30年度の研修では「送迎ボランティアの解散理由は、会員の高齢化によるものが多い。団体が存続していくためには、会員の新規獲得が必要でそのために安全講習が有効である」というお話を伺ったため、今回の講座は「免許返納後の移動手段の確保」という地域課題を解決するために、ねこの手サービス協力会員有志が行う送迎サポートが安全・安心の下、続いていこう、運転者の技能実習を行いました。</p> <p>結果、協力会員の運転技能を見直す機会となるとともに、運転に自信が付き、今後の活動への意欲向上へつながったと思われます。来年度以降の開催を望む声もあり、協力会員獲得の観点からも、ねこの手サービス協力会員有志である、「送迎サポートねこの足」の主催で同様の運転講習会が引き続き行っていけるよう、協力会員とNPO法人長野県ハンディキャップ連絡会間の関係を取り持つこともできました。</p> <p>今後は、60代の運転者を獲得するため、コロナ終息後上記研修を広く知らせるよう、役場からのターゲットの年代への発送物にチラシを同封してもらえないかなど、後方支援となる交渉を続けていきたいと思います。</p>			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
5	みやぎボイス連絡協議会	宮城県仙台市	①菊池 遼 ②坂口 奈央 ③佐藤 翔輔 ④石塚 直樹 ⑤手島 浩之 ⑥宇佐美 久夫 ⑦田上 琢磨 ⑧浅見 雅之 ⑨三浦 友幸 ⑩高橋 真由美 ⑪石原 明子	①日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 助教 ②国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部 外来研究員 ③東北大学 災害科学国際研究所 准教授 ④東北学院大学 地域連携センター特任准教授 ⑤建築家・都市建築設計集団/UAPP代表 ⑥関上まちづくり協議会・民生委員 ⑦一般社団法人石巻じちれん ⑧神戸まちづくり研究所事務局長 ⑨気仙沼市議/プロジェクトアリス ⑩南三陸観光バス ⑪熊本大学大学院人文社会科学部(法)准教授	みやぎボイス2021	令和3年7月3日(土)
今回も昨年に引き続き、リモートとリアルの混在した、さらには傍聴者を制限した環境だったが、復興とまちづくりに精力的に関わられている各分野の専門家に登壇いただき、多様な意見交換と示唆に富む知見を共有することができた。				今年「地元で復興検証できる仕組み」と「原発災害と社会的分断」を新たなテーマに加え、多分野にわたる意見交換ができた。「持続的に検証を続けることの意義」と何のために、誰のための検証をするのかを共有できたことは大きな成果と考える。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	特定非営利活動法人市民創作「函館野外劇」の会	北海道函館市	西村 カノン	ダンスインストラクター	市民創作函館野外劇ダンスワークショップ	令和3年6月26日(土) 令和3年6月29日(火) 令和3年7月3日(土) 令和3年7月6日(火) 令和3年7月10日(土) 令和3年7月13日(火) 令和3年7月17日(土) 令和3年7月20日(火) 令和3年7月24日(土) 令和3年7月27日(火)
市民創作函館野外劇は、国の特別史跡五稜郭跡を舞台に郷土の歴史を劇にして次の世代に語り継ぐ市民創作の野外劇で、今年で34年目を迎える。参加者数数千人のほとんどがボランティアであることが特徴である。 しかしダンス等は専門性が高い技術を必要とし、観劇に耐えるものにするためにはプロの手を必要とすることから、今回、劇中で使用する曲に合わせたダンス指導を受けた。				野外劇主催者の一人一人がプロによる細やかな指導を受け、観劇に耐えるレベルを達成した。市民ボランティアが創り上げてきた公演を今後も継続し、地域の歴史を伝えて行くことにより、地域活性化に寄与した。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
7	まつしろ現代美術フェスティバル実行委員会	長野県長野市	①杉原 信幸 ②中村 綾花 ③安土 早紀子	①NPO法人原始感覚舎理事長・芸術家 ②NPO法人原始感覚舎理事・芸術家 ③音楽家	まつしろ現代美術フェスティバル2021のためのレクチャー	令和3年8月22日(日)
美術家/アートディレクターの杉原信幸、中村綾花、を招き、その活動の紹介をしてもらい、経験値をシェアすることによって、そのノウハウを生かし、まつしろ現代美術フェスティバルを継続していく。瀬戸内の志々島に暮らす音楽家の安土早紀子は、土地の音楽を紡いでいる。まつしろの土地を音楽家の視点から見つめ、まちづくりに生かしていく。代表の木村仁も参加。				【講演】作家の活動紹介と皆神勢獅子制作ワークショップや制作の過程を紹介し、松代のまちづくりへの助言を行った。 【トークセッション】来年築100年を迎える旧松代駅舎を会場にトークを行うことで、駅舎を有効活用しようとする地元団体の活動紹介や会場でのライブや創作獅子舞を行ったことから、コロナ禍ではあったが、たくさんの方が集い、松代の門〜アートとしてイベントを行う旧松代駅舎の可能性について語られた。安土は、昨年のコロナ禍は皆神山の自然、今年是人と向き合い、駅舎の空間が人と人をつなぐ音楽の場になることを伝えた。駅舎がまつしろ現代美術フェスティバルを開催していく上でも重要な意味を持つ会場であり、松代のまちづくりに旧松代駅舎の存在が欠かせないことが再認識された。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
8	あきたESDネットワーク	秋田県秋田市	①川原 洋 ②金澤 伸浩 ③鎌田 洋平	①プロジェクトワイルド日本コーディネーター ②秋田県立大学准教授 ③NPO法人はちろうプロジェクト事務局長	～鳥海山麓～環境教育指導者養成講座(PWILD本編)	令和3年9月11日(土) 令和3年9月12日(日)
【input】 1.第一印象では、危険な動物も正しい知識があれば、過剰に恐れる必要はない。 2.追跡では足跡から何をしているのか理解できるようになる。 3.みる、見る、観るは、昆虫って足は体のどこから出ているのかいわれてみると自信ない、観察する目を養う。 4.生息地の証拠を探すには、生きていた証のフンや体の一部から証拠が見つかる。 5.小笠原の現状報告は、人間と自然の付き合い方をスチュワード精神を引き合いに、国や文化による考え方の違いを知り、自然に対する見方を学んだ。 【output】 6.「晩御飯何食べる」子供の好きなメニュー、「第一印象」アジサイと花と葉、「目に見えることば」をジェスチャーで表現、3グループに分かれて、指導案を発表。 7.実施の対象者とキーワードの理解が重要。				1.コロナ禍の実施と方法、参加者の安全配慮、判断基準、Zoomを使いこなすなど難しい局面が多く苦慮。技術や方法に課題が見えた。 2.4会場を繋ぎ2会場では参加者が集まり、指導者がスムーズに講義を補完し、体験活動につながった。対面の希望が多かった。 3.自然を意識してみると、いろいろな意見があり、観察は楽しくなる。生き物を大切にしたい、環境保全に関心・行動したい。 4.クモ、クワガタ、セミ、小笠原やオーストラリアなど講師の体験談は興味関心と、行動力になり、考える楽しさを改めて理解。 5.生き物から興味関心の引き出し方、分け隔てなく、相手の反応や理由を聞き相手に話してもらった。 6.グループや参加者と議論や交流が相互に刺激になり、面白い人材と出会えた。次につなぐ。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
9	NPO法人かえる倶楽部	島根県出雲市	①野本 千寿子 ②下條 龍哉	①NPO法人アクティブボランティア21理事長 ②発酵ライフアドバイザープロフェッショナル	微生物との共存をめざして	令和3年9月19日(日) 令和3年9月20日(月)
						事業内容
【下條龍哉氏の講演】 「EMを知り、EMを学ぶ」 EMという(光合成最近・乳酸菌・酵母菌を主体とした有用微生物)の説明や働き、自然界を浄化に導くメカニズムを子供にもわかりやすく事例とともに話していただいた。また、微生物の力によって浄化されていく様子やにおいが消えるという実験をしてもらいました。目に見えない微生物の力をわかりやすく説明してもらえました。オンラインでしたが、クイズや質疑応答など会場とのやりとりもできました。 【野本千寿子氏講演会「野本塾」】 ご自身が活用されている事例をいくつか紹介していただきました。微生物の力による非イオン化について。量子力学の世界。野本氏による実技指導では、実際に建物の周辺に整流ブロックを設置して、炭はエネルギーを集める。塩は伝える役目。それらを組み合わせて結果を作っていました。また、錆びたビニールハウスがありました。撤去しなくても錆びが進行しないし、ビニールが張れる状態になるとのこと。何より作物の育ちがよくなるらしい。			【下條龍哉氏の講演】 ・分かりやすくして日常生活にすぐに活用できる話でよかった。 ・小学生にも十分理解できる説明だった。10円玉実験やアンモニアの臭い実験も無臭になる。ピカピカになるなど五感で確かめられ生活にも農業にも大気や水にもおきていることと理解できた。きちんと初歩を勉強できる素晴らしい内容だった。(参加者アンケートより) 【野本千寿子氏講演会「野本塾」】 鳥獣対策の事例ややり方を見せていただき、受講生の方で失敗例などを話して解決策を教えてくださいました。結果や整流など目には見えない世界ですが、メカニズムを教えてくださいました。翌日には実際に、畑や建物の周りに整流結果を施すなど実技指導がしてもらえ、大変わかりやすかったです。			
10	一般社団法人おいしい防災塾	兵庫県神戸市	①諏訪 清二 ②森永 速男 ③前 有香 ④下村 晴彦 ⑤室崎 友輔 ⑥阪本 尚生 ⑦服部 征司	①防災教育学会・会長 ②兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授 ③神戸市中央小学校 ④愛知県西尾市立一色中部小学校 ⑤兵庫県防災士会、神戸常盤大学客員教授 ⑥和歌山県印南町立印南中学校 ⑦神戸市立舞子小学校	地域と学校が連携した防災学習	令和3年10月9日(土)
						事業内容
多くの活動発表があり、長所とするポイント、課題が明確になり、諏訪先生のリード、アドバイスの的確でした。解決のヒントおよび解答が得られた意見交換の時間でした。冒頭で、地域と繋がってこられた森永教授の講演があったからこそ本音の意見交換でした。森永教授の講演により、保護者、地域住民が学校(教職員)とどのように関わるかを示唆してくださいました。 アドバイスとして教師(大人)目線ではなく、子供目線で授業を組み立てる。自分を大切にすることを養うことで他者を大切にできる。このことを要に考えることで災害が起きても、どんな時でも子供たちがたくましく生きていくことができる。型どおり、きっちり決めず、たまかこのみ教師が組み立てて、あとは子供たちに任せてみることで、協働性が生まれる。			小中学校では、防災の授業を実施しなければならないが、方法がわからない教職員の方がたくさん居られます。その中で、地域とのつながり、保護者のつながり、の仕方がわからない、この答えが出た会でした。マニュアル通りの防災の取組ではなく、子供はもちろん、親をまきこむこと。方法としては、参観等で防災の学びを子供たちに発表するのはどうか。そうすることで、保護者も発表内容、防災に興味を持つ。子供に教える姿勢ではなく、気づきを導く姿勢で教師が関わるのが大事。意見交換で、課題に対して明確なアドバイスをいただき、聴講者の感想でも本日の学びを早速取り入れたいと述べておられた美術の先生も居られます。			
11	地域づくり塾NASUKAH	石川県白山市	①北村 隆幸 ②広石 拓司	①(株)エンバブリック代表取締役 ②せき・まちづくりNPOぶらめらん代表	はくさんまちづくりカフェ	第1回 令和3年7月3日(土) 第2回 令和3年10月2日(土)
						事業内容
【1回目演題:地域の課題を自分たちで解決していくために】 ①地域のデータを自分ごと化②小さく取組む円卓会議の開催③学校や企業を巻き込むこと等によって、地域の現状を知り、話し合いによって地域の課題を解決することを学ぶ。 【2回目演題:対話と協働のまちづくり】 住民同士の話し合いから関係が生まれ、協働につながる。若者、女性等それぞれ関心の高いテーマで話し合うと輪が生まれてくる。結論を急ぎすぎないで、問いかけることから始めよう!			2回のまちづくりカフェを通して、地域のデータやアンケートで課題を共有しワカゴト化すること、話し合いによって住民同士の関係づくりをすること等の大切さを学んだ。また、ワールドカフェにより多様な人との話し合いにより、いろんな気づきを得られることも体験できた。白山市の進める「市民協働で創るまちづくり」の住民参加を促す大きなきっかけになったと考えている。各地区の参加者が得られた気づきを持ち帰り、地区の活動が活発化されるようNASUKAHとしても活動を継続していきたい。			
12	社会福祉法人 芳香会	茨城県古河市	①篠 智則 ②原 好子	①独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 診療部看護課 看護師 ②独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 施設事業局生活支援部生活支援課 くらまつ寮副寮長	高齢知的障害者の支援のあり方を学ぶ	令和3年10月2日(土)
						事業内容
「障害者福祉セミナー」は今回で4回目を数え、1回目から継続して「高齢知的障害者の支援のあり方を学ぶ」というテーマを掲げ、オンラインで開催した。 第1部では、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園診療部看護課・篠智則看護師に「高齢知的障害者の摂食・嚥下と口腔ケア」、同園生活支援部生活支援課くらまつ寮・原好子副寮長から「高齢知的障害者の日中活動」というテーマでご講演いただいた。 第2部では、「アジアにおける障害者支援」というテーマで全国社会福祉協議会が行っている「アジア社会福祉従事者研修」の修了者で、インドネシアで実践されているソーシャルワーカーの「コロナ禍を生きる障害者のいま」というメッセージビデオを視聴した。			オンライン研修であったため、様々な媒体を使用し、主に障害者支援の実践者に対し、開催告知をした結果、全国各地から92名の参加があった。 篠氏による「高齢知的障害者の摂食・嚥下と口腔ケア」では、写真やイラストを活用したスライドでアセスメントや観察のポイントなどを詳細に説明していただいた。 原氏による「高齢知的障害者の日中活動」では、原氏が実践している日中活動を「リハビリの日中活動」「文化的日中活動」「レクリエーションの日中活動」の3種類に分類し、それぞれ詳細な内容や得られる効果などについて、事例を交えながら説明していただいた。第2部のメッセージビデオの視聴も含めて、聴講者からは高評価が得られた。			
13	柏原自治協議会	兵庫県丹波市	織田 信孝	出筆家(フリーライター)	地域共生している織田家のルーツを学習して後世に引き継ぐ	令和3年10月17日(日)
						事業内容
1.織田信長が直接当地に関与した記録はないが、信長の弟で初代柏原藩主信包や、次男信雄の五男から始まる柏原藩期10代までの藩主系統図はよく目になっていた。 2.今回、提供された10代藩主以降の系図と、説明によって織田家のほぼ全容が判明したことは貴重な財産である。 3.織田信長を祀る建勲神社(全国で3か所)は丹波にあるが、山形県天童市にもあり、双方の末裔がともに首都圏に住んでいて出会い、先祖を守る姿勢が重要であり、柏原もお願いしたいとの想いを伝えられた。 4.体操選手で「織田信成氏」は、信長の7男の信高(大名)の末裔である可能性との情報を得た。			1.10代藩主以降現在の織田家の全容が判明したことは、当地の歴史を継承するにも大いに参考となる。 (屋敷自治会、観光ガイドクラブ、織田まつり委員会) 2.例年信孝氏には、織田まつりの武者行列での「殿様役」をお願いしているが、コロナ禍で2年間中断しているため、今後も来柏の良好なつながりができた。 3.織田信長に使ったかは不明であるが、自治会が保存している「鳳箠(ほうれん)」を近くにある江戸時代に建てられた太鼓やぐら(つづ太鼓)を打つての合図で、展示場から納所までを約30年ぶりに巡行し、歴史的行事の継承の重要性を再認識していただける機会を作ることができた。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
14	岡山建築設計クラブ	岡山市	橋本 健史	建築家・橋本健史建築設計事務所代表/関西学院大学・名城大学・桑原デザイン研究所非常勤講師	『奉還町3丁目を元気にしよう』～歴史ある商店街へ、挑戦は続く～	令和3年10月9日(土)
	事業内容			事業成果		
講演内容は、建築家の橋本健史氏(403architecture [dajiba] 共同主宰)が自身の作品紹介を交えながら、ものづくり、リノベーションのコンセプトや手法を画像で説明していただきました。マテリアルの流動など、リノベーションにおいて既存の材料部位にとらわれず、自由な形で再利用することで歴史の気配を残しつつ新しい価値を重ねていく手法。あるいは新築工事と改修工事に分けられているが、実はそんな境界はないこと、等々独自の理念を展開されました。橋本健史氏が37歳であり、学生時代のエピソードなども折り込まれていて、年齢の近い参加学生たちは興味深く聞き入っていました。今回のテーマ「歴史ある商店街の活性化を考える」うえで、とても参考になり、かつ触発される内容でした。				コロナ感染予防対策として、13チームの学生プレゼンテーションを3部に分けて、1チームごとにプレゼン・審査委員長の質疑応答・フリートークを一連の流れで行った。そのことで作品に対する考察がより濃いものになり学生達にとってはとても有意義な経験となりました。また、Zoomでライブ配信したことで、会場外の学生や参加できなかった学校も視聴でき、他校・他チームの作品やプレゼンテーションに触れることでお互いの刺激にもなりました。学生たちは、奉還町3丁目の課題地に赴き、現地の人たちのお話を聞き、問題点を探り、アイデアをまとめて作品を成功させていく過程で、商店街のみならず、社会にひそむ多くの問題に気づいたようです。街づくり、ものづくりへの関心もさらに高まったと言えます。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
15	学びあい「5色の絵の具」	石川県羽咋市	①川北 秀人 ②佐無田 光	①人と組織と地球のための国際研究所代表 ②金沢大学人間社会研究域経済学経営学系教授	住民自治活動発表会&学習会－アンケート調査が地域を変える－	令和3年10月23日(土)
	事業内容			事業成果		
本事業は持続可能な地域コミュニティをどのように創造していくのか、特に地域コミュニティの中心的役割を担っている町会運営に主眼を置き、アンケートを生かした住民自治活動の発表と自分が住む地域の未来を考えるために実施した。 【第1部活動発表】アンケート調査が地域に変化を及ぼした活動として、2地区の活動発表とゲスト参加として、高校生と元地域おこし協力隊員の活動を紹介した。参加者は感想や質問を付箋紙に記入。 【第2部地域コミュニティの未来を考える】講師2人(川北秀人、佐無田光)によるミニ講演(現場事例と総合計画)のあと、羽咋市の地域コミュニティについて、講師2人と市長が鼎談した。さらに、参加者が一部で付箋紙に記した質問に答えるコーナーも設け、参加者、登壇者、発表者が一体となるような場面も設けた。 【学習会終了後】講師から、今後の取組について助言や情報を得た。				一般参加者の属性は、町会長22%、民生委員・地域福祉員19%、議員8%、行政17%、施設11%、その他23%であり、すべてで自主参加。参加目的として、自分が住む町をよくしたいからと多くの参加者が回答していた。 参加者アンケート回収率は80%で、94%(大変よかった51%、よかった43%)が良かったと評価。また、96%が参考になったと回答。地域づくりについての意見として、「これからの町会運営は、これまでと異なる方法で」や「住民の声を生かし住民主体で地域を創っていくこと」など多数寄せられていた。そして、約7割が「中学生以上全員アンケート」が自分の町で必要と回答。さらに、校下内の町会同士の協働や、町会の活動を支援する組織の必要性などをコメントしており、住民の関心が小規模多機能自治や公民館のコミュニティセンター化へ向かいつつあると推察。 本事業の成果や今後の課題を行政に報告書として提出。その中、今回のような地域づくり人材を育む事業を含む地域コミュニティを担当する専門部署の設置を要望した。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
16	安土学区まちづくり協議会	滋賀県近江八幡市	水津 陽子	地域活性化・まちづくりコンサルタント	”魅力ある自治会づくり”講演会	令和3年11月28日(日)
	事業内容			事業成果		
水津陽子氏の講演を要約すれば、災害時の共助の担い手としての自治会の復興である。今日、自治会の未加入者や退会者が増えているが、これは自治会の運営方法が時代の変化に対応できていないことが原因である。従来の地域の祭りの運営などは、加入率低下や担い手不足という現状からすれば、困難で当然である。近年むしろ求められているのは、高齢化社会に即した「共助」の仕組みである。とりわけ、危機対応を専門とする講師に特徴的なのは大規模災害時にこそ自治会が共助の担い手として、活躍できるという点である。これまで滋賀県はあまり大きな災害に襲われずに済んできた。自治会に「共助」の担い手として意義を見出すことは自治会の再生につながるのではないだろうか。				遠方から招いた講師の話にも関わらず、参加者が共感できる点も多く、個々の自治会の問題が多く自治会の共通の問題であることが参加者に確認してもらえた。もちろん、自治会の現状は様々であり、解決策は一筋縄ではいかないが、詳細な講演資料により、参加者は自らの自治会の現状に合わせて内容を深められる講演であった。なお、終了後に参加者にアンケートを行ったところ、8割以上がこの講演会を「大変よい」「よい」と評価した。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
17	一般社団法人スキルチャレンジ	北海道釧路市	鈴木 翔也	アイスホッケー指導者	マルチスポーツ体験講習会	令和3年8月21日(土) 令和3年8月22日(日)
	事業内容			事業成果		
2日間にわたり、子どもから大人まで約100名の選手及び指導者に対してアイスホッケーの実技/ノウハウ・トレーニング方法を指導いただいた。 また、講師の海外での選手経験や日本代表指導経験のもと、氷都・釧路としてアイスホッケーをより地域活性化につなげていくためには、アイスホッケー環境整備・競技人口拡大・業界の活性化が重要であり、小学生からアイスホッケーを教わり、地元のプロチームまである環境の恵まれた釧路地域は、世界レベルの選手を生み、アイスホッケー首都となるポテンシャルがあることをお話しいただいた。				今回の講演会では、釧路地域での人材のみでは実施できなかった高い知識とレベルでの講習会となった。 世界トッププレイヤーからの直接指導は、釧路地域の子供たちにとって、今後の選手人生において素晴らしい体験となった。また、指導者にとっては、海外・日本の他地域と比べ恵まれていることを再認識させられるとともに、釧路ならではの選手の指導方法や育成計画についてもご指導いただき、氷都・釧路を盛り上げていくための方法を教わる貴重な経験となった。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
18	観光まちづくりの会	兵庫県丹波市	田口 みほ	植物療法教室「FRAWORL」主宰	健康長寿日本一をめざす「暮らしの広場づくり」	令和3年6月12日(土) 令和3年7月10日(土) 令和3年9月11日(土) 令和3年10月9日(土)
	事業内容			事業成果		
ハーブ大園ドイツの薬草園に習い、薬草園作りに向けて、区画整理や土づくりなどについてアドバイスをいただきました。一部の区画では、ハーブ(バジル、チャイブ、セントジョーンズワート)の植栽を行いました。 来年度に向けて、種まき(ジャーマンカモミール、フィアーバーフェー、カレンデュラ)や苗の育成をご指導いただきました。薬草園づくりに際し、薬草の歴史や薬草の作用、ハーブ(セントジョーンズワート、フィアーバーフェー、ジャーマンカモミール、ホーリーバジル)に関する講演が行われ、チンキを使って日常のセルフケアに役立つ実習も行われました。				参加者は、実際に薬草園の区画作りから土づくり、ハーブの種まきや苗の植え付け、手入れ、収穫を体験して薬草園の運営に必要な技術を習得することができました。また、地域住民によるハーブ園づくりやハーブに関する講習、実習を行うことで、地域の交流がより活性化。ハーブの知識を学び、生活に取り入れることで地域住民の薬草に対する関心や親しみが高まり、セルフケアひいては健康に対しての意識づけや意識の向上が図られました。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
19	認定NPO法人とさきわ会藍ちゃんの家	三重県伊勢市	藤岡 喜美子	日本サードセクター経営者協会執行理事	ツリー型ロジックモデルについて学ぶ	令和3年12月10日(金)
	事業内容			事業成果		
前回(R2.2.8、R2.2.23)の講習で学んだ「組織として目指すべきビジョン」の再確認と、各部署で作成した「ロジックモデルシート」の講師が添削後、最終版を確認し、それぞれの内容を共有した。「ロジックモデルシート」を基に、現在の各部署の事業内容を見直すことや事業継続のために他とは異なった特色をだすための工夫などについて講義いただいた。 現在休止している「こども食堂」については、貧困家庭の子どもの利用・・・となりがちであるが、地域の方々が交流できる居場所やお金の価値を知れる場所など、事業所独自の特色をだすことが大切であることを教えていただいた。 ロジックモデルシートは、10年後を想定した内容であるのに対し、3年後を想定した「ビジネスモデルシート」についても、事前に各部署で作成し、添削いただいた。				事前に各部署で作成した「ロジックモデルシート」を基に、それぞれの中期成果や後期成果についても再確認できた。また、他部署の「ロジックモデルシート」も事業所内でそれぞれがつながっていることや、ビジョンは当事業所の解説当初から変わっていないが、事業内容はその時の地域の諸問題などに対応して変化していることがよく分かった。 ロジックモデルシートを作成していく中で、現状や今後の課題、ビジョンについても再確認する機会になり、事業継続していくために大切なことや、各部署の連携、自分の役割などを考えることができた。		



NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
26	認定特定非営利活動法人 長野サマライズ・センター	長野県塩尻市	若月 大輔	筑波技術大学産業技術学部教授	聴覚障害児童・学生に向けた、オンライン支援サービスの提供者の育成(GIGAスクール構想を活かすために)	令和4年1月17日(月)
	事業内容			事業成果		
<p>13:30～14:40 遠隔文字通訳支援サービスについて 14:50～16:00 CaptiOnline4の特徴と操作方法について 16:00～16:30 質疑応答</p> <p>長野県内6団体に加え、2大学の支援室・支援学生、全国16都道府県(北は山形県、南は沖縄県)から支援関係者が集まっていただき、新たなネットワークづくりが実現した。 NPOの弱点である技術サポートとして、講師の若月先生との連携が強化でき、GIGAスクール構想にも関わってくるであろう、先端技術を今後取り入れて行けるきっかけとなった。 Withコロナの時代の中でも、必要な人に必要な情報を届ける基盤づくり(人的ネットワーク、先端技術の応用)の強化につながった。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
27	SPPOG	福島県会津坂下町	①安達 忍 ②大内 政雄	①みさとねっと事務局 ②SDGsアウトサイド・イン公認 ファシリテーター	SDGsで地方創生を考える	令和3年9月16日(木) 令和3年11月18日(木) 令和4年1月22日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>○新型コロナウイルス感染防止(福島県緊急事態宣言)のため、1回目と2回目の開催日を延期、会場を変更して実施しました。 ○坂下地区地域づくり協議会が共催。講師関係費以外の費用及び会場予約並びに使用料金について便宜を図って頂いた。 ○福島民報社の後援を頂いた。 ○1回目及び2回目は、会津坂下健康管理センターを会場、安達忍氏に、座学を開催し、「SDGsの概要」「身近な事例発表」「導入事例」「SDGsと市町村の政策、福島県総合政策、国政等の関係」等についてご指導を頂いた。 ○3回目は、会津坂下町中央公民館を会場、大内政雄氏を講師に過去2回のおさらいした後、安達忍氏をアシスタントに加え、カードゲーム「SDGs de 地方創生」で地域づくりを疑似体験しました。最後に参加者でワークショップを行い、総合的な振り返りを行い、これからSDGsに対してどのように関わっていくか(いけるか)について意見交換をしました。</p> <p>今回の勉強会では、持続可能な開発目標である「SDGs」が定められた背景や一人一人が主役であること、全ての目標は何かしらのかわりを持っており、実践や考え方に正解はないといった導入的な要素から学ぶことができました。 そのなかで「経済に関すること」「社会に関すること」「環境に関すること」大きく3つに目標が湧けることができる道しるべであり、それぞれにターゲットといわれる具体的な目標が定められていること、あわせて、企業がSDGsに取り組むことで期待できる4ポイントを教えて頂いたことにより、受講者はより身近に感じることができるようになったと話していました。 また、国や県に倣って地方創生にSDGsを紐付け活用することで、地域課題の見える化や、課題解決が加速することを事例とともに教えて頂き、会津坂下町振興計画や施策について考え直すきっかけとなりました。 カードゲーム「SDGs de 地方創生」では、楽しみながらまちづくりを疑似体験して、17の目標は相互につながり関係している経済、社会、環境の諸課題について包括的な解決を目指していることを改めて理解するとともに、一つの目標達成ばかりに気を取られると、違う目標がマイナスになる場合もあることを知りました。 最終の意見交換では、各々が私生活や仕事の中で、小さなことでもできることから実践していくことが大切で、塵も積もれば何とやら、結果的に大きな成果につながるのではないだろうか、17番目の目標にあるパートナーシップをコーディネートする人材が多ければ多いほど目標達成に加速すると思うので今後も定期的な勉強会の開催が必要。特に町行政を巻き込み町主導に開催して欲しい。当然職員も知ったかぶりしないで学習が必要。 SDGsは無関係な人がいても関係ない人はいないので、みんなで町民を鼓舞し巻き込んでいければと結ばれました。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
28	特定非営利活動法人シャローム	福島県福島市	①時田 直也 ②時田 香代子	①バトン歌手 ②介助者	2021ひまわり感謝祭&共に生きる仲間たちのコンサート 一分かち合い、命かがやいてー	令和3年12月18日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>震災から10年の節目の年、福島でのひまわり栽培を記念し「震災の記憶・福島への思い」と題し、ピアノでの弾き語りにてメッセージをいただいた。東日本大震災当時、毎日流れるニュースに時田さん自身が会話はできても歌うことは奪われたという。そんな日が続いていたある日、「上を向いて歩こう」のメロディが流れ、心地よからだに沁み込んできたことが契機で、少しずつ歌って、表現することを取り戻されたとのこと。歌うことで福島を伝え、つながりを大事に活動を続けてくださっている。マイク無しで響く声は、メロディとなり参加者個々に大きな役割を感じさせた。ご当地古閑裕而氏の「高原列車は行く」は高齢者の方々に温かさを届けてくれた。</p> <p>当初の計画は「ひまわりプロジェクト」10年の節目に、福島での栽培を記念し、栽培地の児童養護施設での開催であった。しかしコロナ禍での実施は難しく、何度も日程変更を経過し今回の「ひまわり感謝祭」での実現となった。開催が遅れたが故の、ひまわりの栽培を記録した動画も完成し、地元の神社による祈願祭や参加者が主人公の動画の上映会も含めて、「共生の地域づくり」をテーマにしていた行事として、立体的な視点で伝えられる感謝祭となった。会場も市街地で交通の便もよく、盲人協会の方等多く、講師から学びとともに共生社会拡大の役割を担い伝えたいとの感想が寄せられた。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
29	(特)いちばら市民活動協議会	千葉県市原市	①漆原 幸子 ②山内 恵子 ③大槻 美和子	①NPO法人学びスペース cococara代表者 ②Amityいちばら ③クラス オン ジャパン	市民の力で子どもたちの命を守るワークショップ ー不登校、経済的困窮、外国人教育を乗り越え、子育てしやすい市原を目指してー	令和3年10月16日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>「すべての子供への支援体制の充実」の達成には、市・教育委員会・学校・各家庭など地域を上げて行う必要があるが、不登校や経済的困窮、外国籍の子どもの言葉などの問題は身近に潜む問題にも関わらず、気づきづらいという側面がある。そこで、不登校や経済的困窮、外国籍児童の日本語教育について活動する関係者に、活動のきっかけや現状および今後の課題などを講演してもらった。そのうえで課題解決のために地域でできる支援を参加者のワークショップで意見を出し合った。</p> <p>不登校、経済的困窮、外国籍児童の教育の問題の解決には、地域コミュニティや行政、民生委員などの関係者が積極的に情報交換し、子育て中の親を孤立させないことが重要で、普段から気軽に相談したり、誰かとなつなげられるコミュニティを作ることが必要であるということが共有でき、これからの地域づくりの方向性を決めることができた。外国人に対する日本語教育については、国でも検討されているが、市原市においては、特にコンビナート近隣の住宅地に多くの多国籍の方が住み、現状では支援が十分ではない。市や地域の学校と連携しながら、地域の中で支援していく必要性を理解した。</p>						

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
30	一般社団法人洗風座	東京都港区	①大川 時夫 ②堀内 道夫 ③伊藤 順久 ④古在 豊樹 ⑤宮林 茂幸	①かずさ自然エネルギー(株)取締役 ②(株)光と風の研究所代表取締役 ③イベントプロデューサー・イベントバイキング運営組織委員会CEO ④NPO植物工場研究会会長 ⑤東京農業大学教授	公開勉強会/まちなか大学院事業	令和3年12月14日(火)
	事業内容			事業成果		
<p>下記①&amp;②の2部構成で行った。                  ①午前の(一社)洗風座の運営における助言において:大川時夫氏:開発連携のほか、従来から洗風座が得意とする英国のエンジニア、イザムバード・K・ブルネルを忘れないで講座や事業に取り入れ、これをやめないこと。                  ・堀内道夫氏:持続可能な社会を実現するために、洗風座の主力とする再生エネ活用について、水素に関する材料や輸送方法等の新技術もテーマとすること。いすみ市との連携は望ましい。                  ・伊藤順久氏:変化する時代では、リベラルアーツ分野が大事である。その面での企画や実施は大いに支援することができる。地方での開催においても指導できる。                  ②午後の講演において:                  ・古在豊樹氏:同氏が専門とする植物工場の現状の動向および未来展望についてスライドで図表を引用し解説して頂いた。将来は大幅なコスト低減が期待できるという                  ・宮林茂幸氏:多摩川源流大学の実践において、学生たちの現場から学ぶことの重要性について強調された。その現場での対象と内容、その様子について、写真等により解説して下さった。</p>					<p>(1)午前の助言からは、洗風座およびまちなか大学院において取り上げるべき具体的なテーマについて、時代性や他社との競合や競争力のある得意分野で活動することの重要性について指摘を受けた。その面でも事業としての提案とPR、さらにそうした案件での講座や分析や共同事業を遂行する方向性を獲得した。                  (2)午後の講演では、二人の講師に約30分ずつ講演をして頂き、その後、伊藤順久氏の司会でパネル討論を行った。一般参加者からも植物工場で栽培できるもの、できないものの野菜・果物についての質問、源流大学での実践教育を制度化するに適用したいなどの意見があった。これらは、洗風座やまちなか大学院での実践に方向性が得られた。以上、助言者や講師の先生方、そして熱心な参加者があり、次年度からの事業に直結する成果が得られた。</p>	
31	むつの会	青森県むつ市	①久保 里砂子 ②木下 悦子 ③高屋 龍一 ④山本 香織 ⑤鳥山 聖子	①フリーランス、防災士 ②活花講師 ③葬祭業 ④老人ホーム勤務、看護師 ⑤行政相談員	①地域づくりと防災について(第1回、第5回) ②ウーマンパワーが地域を変える(第2回) ③高齢化社会における「地域づくり」のあり方(第3回、第6回) ④地域に広げる見守りの「和」と「輪」(第4回) ⑤行政相談員の目線から見た地域づくりについて(第7回)	第1回令和3年5月9日(日) 第2回令和3年6月13日(日) 第3回令和3年7月11日(日) 第4回令和3年8月22日(日) 第5回令和3年9月12日(日) ※中止 第5回令和3年10月17日(日) 第6回令和3年12月12日(日) 第7回令和4年1月16日(日)
	事業内容			事業成果		
<p>①地域づくりと防災について(第1回、第5回)                  ②ウーマンパワーが地域を変える(第2回)                  ③高齢化社会における「地域づくり」のあり方(第3回、第6回)                  ④地域に広げる見守りの「和」と「輪」(第4回)                  ⑤行政相談員の目線から見た地域づくりについて(第7回)</p>					<p>①地域づくりと防災について(第1回、第5回)                  講座を通じて、地域連帯の重要性と必要性を理解して貰えた。                  災害時における「地域共助」のあり方を参加者の皆さんはしっかりと学んでくれました。                  ②ウーマンパワーが地域を変える(第2回)                  地域づくりに消極的な婦人層に「地域共生」の重要性を啓蒙することが出来た。                  ③高齢化社会における「地域づくり」のあり方(第3回、第6回)                  高齢化社会を迎え、先細り傾向にある地域づくりをどう進めるかを学ぶ事が出来た。                  高齢者が有する豊富な経験と知見を、地域づくりに生かす方法を講演して頂き、勉強になった。                  ④地域に広げる見守りの「和」と「輪」(第4回)                  地域づくりには、互いが干渉し合い、気にし合う事の大事さを皆さん理解してくれたようです。                  ⑤行政相談員の目線から見た地域づくりについて(第7回)                  安心・安全な地域づくりをするために、行政を動かすにはどうするかを学んだ。</p>	
32	芦屋Tioクラブ	兵庫県芦屋市	①李 亜輝 ②鍋谷 勲	①二胡演奏家、中国文化芸術センター講師、日本二胡学会理事 ②写真家、元兵庫県写真作家協会会員	音楽と写真ボランティア養成 スキルアップ講座 音楽と写真でつなぐ人の輪	令和3年10月4日・21日・28日 令和3年11月4日・6日・25日 令和3年12月9日・23日 令和4年1月13日・27日 令和4年2月17日・24日・27日
	事業内容			事業成果		
<p>1. ボランティア養成講座は会場や参加者もコロナ感染予防に配慮して開催した。演奏会、交流会、写真展は中止。芦屋川さくら祭り他のイベントも中止となった。                  2. 音楽ワークショップは独奏と合奏の表現の違いを学び演奏技術の向上を図る。コロナ禍での演奏会はプロの演奏家と共演し幅広い年代の方に心を癒す音楽を届け、地域活動を積極的に行う音楽ボランティアとしての成長を期待する。                  3. 写真講座は撮影の基礎、構図、鑑賞、タイトルのつけ方、屋外撮影で実技指導。何処かで見たことがある所謂「写真」より、作者が新たな感覚で写した作品のほうが価値ある。写真は見る人それぞれに感じ方が異なるもの、鑑賞者にもイメージが膨らんで色々と想像出来るタイトルをつけると写真の値打ちが上がります。撮影をライフワークとして継続すれば誰にも撮影できない傑作がきっと撮れます。</p>					<p>演奏会でワークショップの成果を披露し実践経験を積み有効な場となった。演奏会のDVDを制作し福祉施設等へ寄贈し楽しんでもらった。2021.10 YouTube に活動紹介を公開、動画には強い発信力があり多数の反響。https://youtu.be/gtRbSw0jY地域、四季の情景など撮影して病院、老人福祉施設等で巡回写真展を開催。</p>	
33	井戸端会議実行委員会	長野県宮田村	井上よしや	ヨガ講師	津島神社DEヨガ講座	令和3年11月21日(日) 令和3年12月19日(日) 令和4年1月16日(日) 令和4年2月20日(日)
	事業内容			事業成果		
<p>井上先生は牧師の家に生まれ、外国人の母の影響で、英語で会話をする家庭で育ったとのこと。IT企業に就職し、企業人として都会の管理された生活を続けていく中で、自身の生き方について改めて問い直し、仕事を辞めてインドに行き、ヨガを学んだという、井上先生の講座は、時々英語も交えながら、全身を使ったヨガポーズを中心とした指導であった。                  今回の講座は、井戸端会議実行委員会委員の薬劑師(鶴巻)がアロマ オイルの手法を取り入れ、ヨガとアロマを融合し、香りを楽しみながら、ゆったりとした音楽の中で癒やしのヨガ体験の時間を演出した。講座は、若い女性や親子の参加が多かった。キッズヨガは、鏡技などのスポーツに比べ、子供ひとりひとりの運動能力や成長発育の速度に合わせて行える、子供の健全育成にとっても有効である。体の柔軟性といった身体能力だけではなく、集中力アップの効果もある。子供が楽しみながらヨガを楽しめるようにレクリエーションやゲームを取り入れながらヨガを学んだ。日頃から井戸端会議の活動に参加している精神障がいを持つ当事者の参加もあった。ヨガは自律神経のバランスを整え、心と体の健康増進に効果がある。ヨガがうつ症状に効果があるかという点、ヨガをやることでセロトニンが増加し、気持ちの落ち込みや、イライラなど気分が改善したり、集中力が向上する、寝つきが良くなるといった効果がある。</p>					<p>「事業成果1.広い年代、障がい者の参加」バリアフリーの交流の場の創出                  若い女性や親子の参加が多く、日頃から井戸端会議の活動に参加している精神障がいを持つ当事者の参加もあった。今回の講座では、障害の有無に問わず、ヨガを通じたバリアフリーの交流の場となった。                  「事業成果2.村内外からの参加 街中活性化」                  今回の講座の広報は、月刊かない、週刊いな、e-10 といった上伊那の情報誌はもとより、月刊いた、長野県文化芸術情報発信サイト                  [https://www.culture.nagano.jp/recruitment_cat/recruitment04/で紹介をしている。こうした広報の情報を見て、宮田村の他、伊那市、南箕輪村、上伊那郡外も木祖村からも参加者があった。宮田村に初めて来た親子連れも多く、街中活性化の一助の役割を果たした。                  今後の課題となる事業成果を目指して 井戸端会議実行委員会が活動拠点としている村人 TERRACEの側にある津島神社の境内を活用した屋外教室を企画したが、講座の開始時期が冬であり、天候の影響で屋外での開催は断念した。屋外での講座は、新型コロナウイルス感染対策上有効的である。来年度、季節の良い時期に街中の神社境内で木々の木漏れ陽の中、青空の下でのヨガ講座の実現をめざしたい。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
34	特定非営利活動法人放課後こどもクラブBremen	宮城県石巻市	田中 秀典	石巻専修大学人間学部人間教育学科 特任教授	「家庭環境と学力低下」+ Bremen発表会	令和4年2月5日(土)
	事業内容			事業成果		
田中秀典特任教授が小学校教員時代の経験を踏まえて「家庭環境と学力低下」についてお話されました。子どもたちの「なぜ」を大切に、「学ぶ姿勢、学ぼうとする姿勢、もっと〇〇したい」という気持ちを大事にしてほしいなどと述べられました。コロナ感染症予防対策としてFacebookライブを活用してネット中継も行いました。					家庭環境と学力は相互に関係し合っているが、家庭環境に支配されることなく、家庭で学力を高める対策を心がけ考え合うことができました。参加された保護者からは素晴らしい講演で大変勉強になったと、感想をいただきました。	
35	高知県青年団協議会	高知県の町	①小野 雄介 ②小川 俊一 ③吉村 忠保 ④西込 浩一	①ゲストハウス経営、元四十万町地域おこし協力隊 ②特定非営利活動法人地球緑化センター理事長 ③よしむら農園代表 ④株式会社にしごみ代表	高知県青壮年チノモノ・ヨソモノ交流&研修会	令和4年2月20日(日)
	事業内容			事業成果		
●小野雄介氏 四十万町協力隊として活動していた頃の経験談を基に、移住者としてそこに暮らす意思決断や、チノモノ・ヨソモノ両者がお互いにそれぞれの思いを受け止め合うことの大切さについてお話いただきました。チノモノにとっては改めて移住者の方の思った以上に苦労されている本音に触れることでより「つなぐ」ことの大切さを学びました。 またヨソモノにとっては改めて移住者の方の思った以上に苦労されている本音に触れることでより「つなぐ」ことの大切さを学びました。 ●小川俊一氏 「緑のふるさと協力隊」の事例を基に、行政・協力隊・地域の連携・つなぎやサポートの大切さをご講演いただきました。それぞれの立場から、主体者となりしっかりとヨソモノを支える体制に見習うべきところが多くありました。高知県内ではまだまだ認知度の低かった緑のふるさと協力隊ですが、今後青年団としてもトモに地域を盛り立てる仲間として連携をしていきたいと思えます。 ●分科会 様々な立場の方が集い、移住青年中心に日頃感じていることを話してもらい、どの分科会でも具体的に明日からの動きにできないか助言者みなさんにアドバイスをいただきながら模索することができました。					「こんな場所があったなんて」という感想が、現役の地域おこし協力隊の方から挙がりました。日頃地域の中で暮らす移住者にとって、悩みを打ち明けたら、同じように地域の中で活動する仲間との出会いの場が非常に大事であり、チノモノもヨソモノも集う・お互いのことを知り合う「きっかけ」がなかっただけでと改めて実感しました。 本事業のように地域づくりに携わる様々な立場の人が集い、つながり一緒になって地域のこれかを考えると場所があることで、点でのつながりが線となり、やがて面となってチノモノ・ヨソモノの垣根を越えた地域の主体者として連携した動きにつながるきっかけとなる会になったと思います。今回を基に、チノモノ・ヨソモノのネットワークをさらに広げ深め、日ごろから地域で動く若者をサポートする動きをさらに加速していきたいと思えます。	
36	NPO法人アレルギーを考える母の会	神奈川県横浜市	①大矢 幸弘 ②井上 徳浩 ③尾張 裕子 ④前田 えり ⑤藤原 絵里奈 ⑥山口 かおり ⑦田野 成美	①国立成育医療研究センターアレルギーセンター長 ②国立病院機構大阪南医療センター小児科医長 ③～⑦保護者	アナフィラキシー親子のための懇談会	令和4年2月26日(土)
	事業内容			事業成果		
コロナのため今年もオンラインで開催した懇談会は、午前中は大矢幸弘先生が、「ここまでわかった食物アレルギー・アナフィラキシー、消化管アレルギー」をテーマに60分講演、参加者からの質問、相談に更に50分対応。昼休みをはさんで午後には井上徳浩先生がより患者目線で講演、90分間の質疑を行い、参加者が希望をもって治療に取り組んでいけるよう納得いくまで丁寧に回答。また、連携している5つの患者会から体験や活動を報告、生活の質を高める活動に取り組んでいることを確認、励まし合った。個別の相談、交流は午後6時過ぎまで続いた。講師資料、参考冊子を後日全員に郵送した。					アナフィラキシーやショックを起こす神奈川県内はもとより北海道から沖縄までと海外から1名の患者・保護者を中心に、サポーターである行政や製薬企業など、合わせて55人が参加した。オンラインの良さを、遠方の方にも旅費と時間をかける必要なく親子で、家で参加の機会を設けることができた。・長年重症度が高く、寛解をあきらめがちな親子が、先輩親子の体験談や活動報告、臨床に溢れたオピニオンDrの思いやりにあふれ、具体的に親切丁寧な指導に「治る希望が湧いた」「もう一度 基本の治療を頑張ってみよう」「なおざりになっていた点を直視して家族で励まし合って頑張る」など前向きな声が上がった。・当事者にとって誤食事故で命にかわりかねない大きな課題であった「外食中食についての調査報告」や、当事者はもとより身近な友達や保護者にも正しい理解を広げる「アレルギーの入園入学マニュアル」の開発など、アレルギーにやさしい地域づくりへの取り組み報告も当事者、サポーター共に非常に参考になると喜ばれた。	
37	東大むら塾	東京都目黒区	①加藤 慎康 ②高橋 博之 ③多田 朋孔 ④中川 敬文	①合同会社カモケンラボ代表 ②ポケットマルシェCEO ③NPO法人地域おこし事務局長 ④株式会社ソノマ代表取締役	地域活性化に主体的に取り組むリーダーの育成	令和4年2月11日(金)
	事業内容			事業成果		
加藤氏からは、自ら主体的に活動していくことによる、地方が自立できる場づくり、住民を巻き込んだまちづくりの重要性をうかがった。 高橋氏からは、知識をさして頭で地方創生を取り組むのではなく、地方にいき現場を体験すること、日本全体として地方と都市をかき混ぜる重要性をうかがった。多田氏からは、地方の実情に基づいた政策の必要性をうかがった。また、地域に入る際には地域に押し付けにならないよう自ら進んで行動することが大事だとうかがった。 中川氏からはまちづくりの取り組み方として自身の経験も踏まえつつ、地域の人と1から作る協働の姿勢と、地域に根ざした施策の重要性についてうかがった。					視聴者にとったアンケートからは、10～20代の地域おこしに興味を持つ層を中心に「地域で活動している生の声が開けてよかった」「新たな視点を発見した」など、本企画でしか聞けないような考え、視点を提供することができたといえる。行政プランコンテストに参加し、富津市に興味を持っている学生からのアンケートでも、「第一線で活動している方の意見は貴重だった」や「地方とのかかわりかたをみなおすすきかけになった」など、本企画を通して深い学びの場を提供するとともに、プランコンテストとあわせ、富津市の関係人口の一部として富津市の地域づくりに貢献できる人材育成に繋がったと考えられる。 また企画の様子は、富津市内の住民をはじめ全国の地方創生を志す学生や若者にとって地域づくりを考えていく上での貴重な資料として今後も動画配信サイトを通して外部公開していく。	
38	フープダンスキップ飯塚	福岡県飯塚市	①一瀬 弘美 ②たかはし 葵	①ボイスコーチ ②タレント、コメンテーター	みんなで楽しくフープ・ボイトレ	令和4年1月22日(土)
	事業内容			事業成果		
【事業目的】 子ども達がフープを使って体を動かす楽しみを味わいながら五感を刺激することで、体を鍛え感情を豊かに表現する事が出来るようになることを目的に実施しました。 ボイスバランストレーニングによって、体のバランスを整えることで心を整え、呼吸の仕方や音の出し方を学び、集中力をアップし自律神経を整え、基礎体力を鍛えます。 【実施内容】 ・フープのついでに講話 ・フープ実技(フープの選び方、持ち方、回し方、技など) ・ボイスバランストレーニングについての講話 ・ボイスバランス実践(ストレッチ、呼吸、発声など)					【フープについて】 フープをはじめて回す方も参加され、フープのサイズ選びや回し方等を習得できました。最初1回は回せなかった方が上達し回せるようになりました。 フープを回したら、フープを使った技等をパフォーマンスとして人前での発表する事で、少し自信がいったようでした。 【ボイスバランストレーニングについて】 ボイスバランストレーニングでは、ストレッチ等で体をのばし、体のバランスを整え、呼吸の仕方、声の出し方などを詳しく知ることができ、参加の皆様が楽しんで取り組みをされていました。 【全体総括】 今回の事業により、学んだことや磨いた技を地域のイベント等で発表し、地域の一人として地域づくり活動に積極的に参加することで、子どもや保護者が異世代との交流を進めること、また、地域の皆さんに喜んでほしいと考えています。 また、練習したことをイベント等で演技をすることは、自信をつけ、さらなる成長につながると思っています。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日	
39	(公財)しろう森林王国観光協会	兵庫県宍粟市	村木 智裕	(株)インセオリー代表取締役 DMOアドバイザー	観光プラットフォームの必要性と構築に向けて	令和4年2月7日(月)	
	<b>事業内容</b>				<b>事業成果</b>		
	<p>「ふるさと重要観光条例」のビジョンを実現するため“訪れる人々を増やす”ことが観光の基本である。現在のメディアの接続時間は約半数以上がインターネット環境であり今後も益々増加する中で、この流れをうまく活用しなければ乗遅れてしまう。デジタルにて①WEBマーケティング②SEO対策③SNS運営④MEO対策をうまく活用するとともに、デジタルもプラットフォームを進め、ワンストップで情報入手・発信し、アクセスを分散させず、コンテンツの全てを掲載しWEBと連動させることにより、訪れる人々を増やし経済効果を生むことができる。DXとはデジタルを使うことで変わる。デジタルを活用する為が変わることである。成果が出るまで粘り強く継続することが重要である。</p>				<p>コロナ禍の中ではあったが、参加予定の90%(会場25名・オンライン8名)の出席があり、関心の高さが数字に表れたと理解した。                      次回の開催は、4月に予定し組織の立上げの方向でキックオフすることも説明し同意をえた。また、講演のデジタルプラットフォーム構築を進めるとともに、多くの事業者に参加願ひ、具体的にコンテンツのマーケティング化をすすめる説明会を、3月中には開催する予定である。この事業を推進するにあたり、今後も講師の村木氏と観光事業者が中心となり取り組むことで一致しております。しかし、デジタルアレルギーは広く存在するため、粘り強く取り組むことが重要である。</p>		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日	
40	一般社団法人みやざき地域おこし協力隊ネットワーク	宮崎県小林市	多田 朋孔	NPO法人地域おこし事務局長	みやざき地域おこし協力隊オンラインセミナー	令和4年2月17日(木)	
	<b>事業内容</b>				<b>事業成果</b>		
	<p>・協力隊時代の活動事例                      ・地域における活動のステップ                      ・活動のロードマップづくりについて</p>				<p>多田氏の講演は活動事例としてだけでなく、「地域おこしの5ステップ」といった地域活動における考え方も提示していただき、今後の活動の流れをイメージするに当たって、非常に参考になったと思う。実際もっと早くこの話を聞きたかったという感想もあった。                      今回のような内容を、今後初任者研修として1年目の隊員に展開していくことも考えていきたい。</p>		